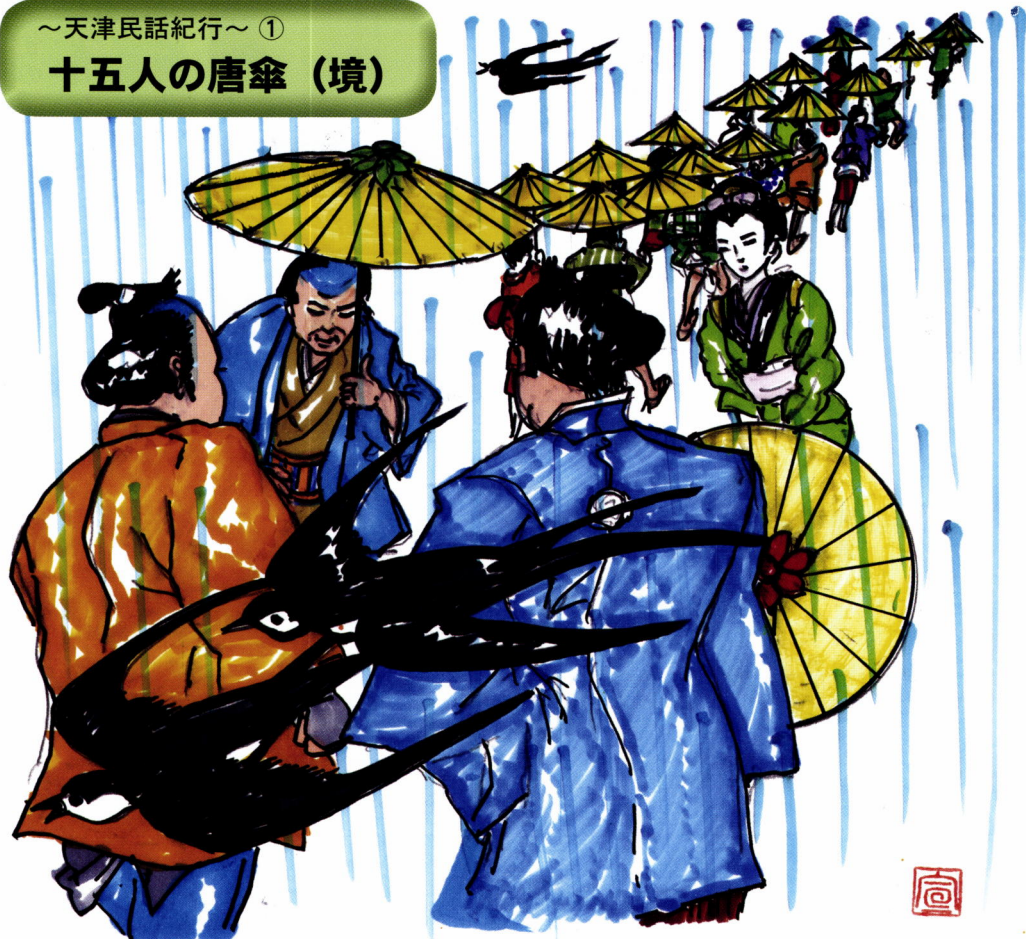


～天津民話紀行～①

十五人の唐傘 (境)



はつかさん

第 24 号

発行
天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会

印刷
米子ワークホーム

その昔、伯耆の国大山で牛馬市が盛んだった頃、市場で裕福な旦那と貧乏な男が偶然知り合いました。

お互い『海の境』と『山の境』が住まいの二人は意気投合して話が弾み、海の境の旦那が「うちには宝が山のようにあってな、宝の蔵がなんぼでも建ってるだ。」と

言い出しました。一方、山の境の男は「うらやましいげな話だが、おらが家はどえらい貧乏で人に自慢するような宝物はなんもないが、たった一人に負けんもんがあるだ。」と言います。旦那は「一つでもそういうもんがあるなら結構だ。そげならその宝物とうちの宝物を持ち寄って宝比べをしようじゃないか。」と言い出し二人は『宝比べ』をすることになりました。

そして『宝比べ』の日、海の境に住む旦那は、大勢の店子たなこを使って馬車で宝物を運ばせ、立派な宝物をずらりと並べました。

ところが、山の境の男は姿を見せません。「来んじやないか、わしに恐れをなしたか。」と旦那は得意満面です。そこへ十五人の子どもを引き連れて男が現れました。子どもたちは皆、唐傘を一本ずつ持って、小さな子から順に男の子や女の子が列を作って並びました。「これがうちの宝じゃ、人に自慢

できるもんはこれより他にないですだ。」と男が申し訳なさそうに謝っていると：

一天にわかには、かき曇り黒雲とともに夕立が激しく降り始めました。旦那は大慌てで並べていた壺や掛け軸や鎧などを片づけました。が、とうとう間に合わず宝物を濡らしてしまいました。

一方、男は持ってきた唐傘を綺麗に並べて子どもたちに差させると、涼しい顔で帰っていきます。その様子はまるで法勝寺歌舞伎の『白波五人男』の行列のように見事なもので、見物人からも割れんばかりの拍手が鳴り響きました。これを見た旦那は「どれ程宝の山があっても、子に勝る宝はないこりゃあわしの負けだ。」と言いました。

こうして【子宝】という言葉が使われるようになったそうです。ところで、なぜ男は子ども達の間で唐傘を用意できたのでしょうか。男が言うには「つばめが低く飛ぶのを見て、子どもたちに傘を持たせたのだ。」と言うことです。

おしまい

(作・画 野口 宣友)

五月女がせっせと手植え



大国主命が福の種のもと(苗)を撒きます

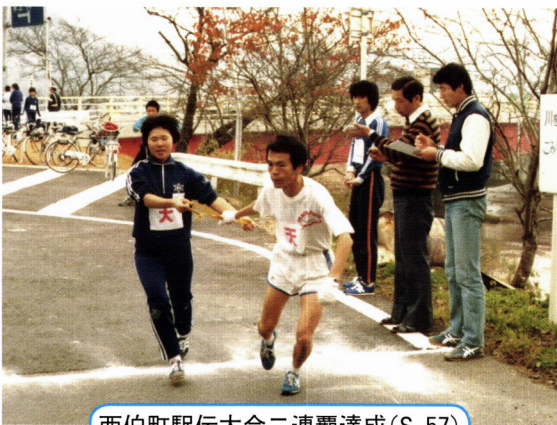
旬の話題
清水井の
大国田植え

去る五月二十五日(日)に、清水井の水で古代米を栽培するための「大国田植え」が行われました。清水川農事生産組合が主催し、「ななぶ神話ガイドの会」と「鳥取荒神神楽研究会」の協力を得ての開催でした。

ことのおこりは、地域おこし協力隊の徳林亜美さんと清水川農事生産組合の大塚道夫さんの発案だそうです。大国主命が大やけどを負って亡くなられたが、清水井の水でねった薬を全身に塗り、生き返ったという古事記から、神楽と復活の水で栽培した古代米とを結び付けて、全国に販売したら面白いのではないかということを実現したそうです。

当日、参加者は寺内の赤猪岩神社に集合し、ななぶ神話ガイドの会の野口宣友さんから、赤猪岩神社について説明を受け、古道を歩いて清水井を目指しました。清水井では、大塚道夫さんから由来を聞き、その後「鳥取荒神神楽研究会」が大国主命の神楽を舞い、大国主命が福の種を田に撒くから、昔ながらに五月女が手植えをしました。五月女は、鳥取大学の学生の皆さんで、初めての体験に手足の泥パツクと大変面白がっておられました。

(畠 稔明)



西伯町駅伝大会二連覇達成(S.57)



農協天津支所前から一斉にスタート(S.62)

天津地区 駅伝大会

天津公民館によせて①

天津地区駅伝大会は、昭和六十一年度から平成二十年度まで、第二十二回大会まで行われていました。

当時のコースは、農協天津支所前交差点(現在のTMS交差点)をスタートし、阿賀から清水川、坂根、境と各集落を回りスタート地点に帰ってくるコースで、選手も各集落からの声援を受け力走していました。

また、昭和四十年頃には、西伯町体育協会主催の駅伝競走大会に参加し、中央公民館を発着点として、十区間、十五・一kmの駅伝コースで健脚を競っていました。当時天津地区はニュータウンと一緒に『走友会』というサークルを作っており、そのメンバーに協力してもらって参加していました。

昭和五十七年の第十四回大会では、一般の部で天津地区は二連覇を飾っています。

『我が天津一般チーム、一区はエース東町の長門君、リードを奪い二区柏尾の千原君へ；終始トップを守り、最後十区谷川の野口君がゆうゆうとゴールテープをきりました。結果は、区間賞を七人も出して、堂々の二連覇に輝きました。』

(館報あまつ十六号より)

皆さん日頃の健康・体力づくりの為、無理のない程度に体を動かしましょう!

(文責 野口 勝樹)

あの人この人
地域の治安を守る
阿賀の駐在さん



こんにちは、私は阿賀駐在所に着任して以来四年十ヶ月になりますが、この間地域の皆さま方には公私ともに大変お世話になっており、この誌上をお借りしまして深くお礼申し上げます。

さて、阿賀駐在所管内での事件事故発生状況ですが、昨年は盗難などの刑事事件が九件発生しました。出店荒らしなど既に検挙に至っていますが、今後とも外出時には必ず戸締りをするようお願いいたします。

交通事故は昨年人身事故が九

件、物損事故が一〇九件発生しました。夏場は、集中力の低下などによる接触事故の増加が予想されます。特にスーパーやコンビニなどの駐車スペースへの出入りの際には、付近の車両をよく確認して事故のないようにしてください。また、今年は特殊詐欺が増加しており、鳥取県内で六月末までに十四件発生し、被害額は八千万円となっております。

特殊詐欺は「オレオレ」と言って息子を名乗り、「会社で多額の損失を出した」痴漢をして捕まった」などと不安に陥れ、「示談金を払えば内々に事をすませられる」などと言葉巧みに騙して相手の口座にお金を振り込ませまします。知らない相手からの電話には用心し、不審だと感じたら警察や役場、近所の人などに相談してください。

最後になりましたが、夜間パトロール、交通取り締まり、金融機関や各家庭の訪問などを強化して事件事故の防止に努めて参りますので今後ともご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。

(阿賀駐在員 山崎 文章)

ふるさと交流センター 利用団体の紹介
体協 バスケット部

南部町体協バスケの『ファーストブレイク』です。

週一回の練習と西部リーグ(四部制)の二部で頑張っています。主なメンバーは法勝寺中学校の卒業生で、二十歳から四十五歳と幅広い年齢層で結成二十三年の老舗クラブです。みんな地域愛が強く、バスケットの盛んな町になるようにと年一回、南部ミニバス・法中・南中・体協チームでの交流会なども企画しています。

チーム名の『ファーストブレイク』とはバスケット用語で速効を意味しますが最近では選手の高齢化にともない、相手に速攻を出される始末でチームの若返りが急務です。興味のある方は毎週火曜日二十時〜二十二時まで練習していますので遊びに来てください。お待ちしております！

(代表 長原 正美)

〈活動場所〉

ふるさと交流センター

〈活動時間〉

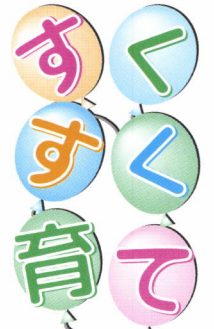
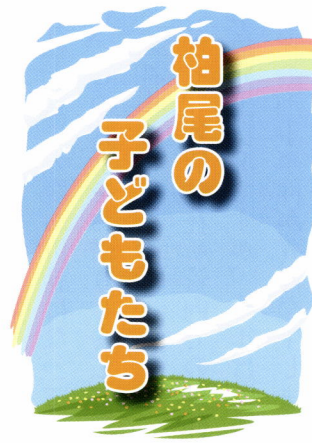
毎週火曜日

二〇時〜二十二時





柏耆古代の丘公園でお楽しみ会



柏尾子ども会は、六年生三人、五年生四人、四年生一人、三年生一人、二年生三人の計十四人、十家庭で活動しています。

年に一度開催する『お楽しみ会』では、野外活動やボーリングなどを楽しみ、子どもたちだけでなく保護者も交流を深めています。十四人みんなが助け合い、楽しむ事が出来ました。

十月の天津地区運動会前には、大人と一緒に応援練習に取り組みます。少ない練習時間ですが、しっかりとセリフや踊りを覚える子どもたちに大人たちも顔負けです。

また、十一月の小鷹神社のお祭りでは、力を合わせ神輿引きも行います。年々、子どもの人数は少なくなってきましたが、地区の行事をたくさん経験し、柏尾地区の伝統行事を受け継いでくれる事を期待したいです。

地域の皆さまには、いつもご支援・ご協力をいただき感謝しています。ありがとうございます。

これからも、子どもたちの元気な姿・笑顔をあたたかく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

(柏尾子ども会会長 亀尾徳学)



火おこしに挑戦だ～！



上手に炊けるかな？

編集後記

母塚山に登ってみた 自動車で曲がりくねった道 緑のトンネルをくぐって

母塚山を登ってみた 自転車でキツイ坂道 青い風切って

母塚山を登ってみた ゆっくりゆくり歩いて 振り返ると町が銀色に光っている

深呼吸してみる

何個目の曲がり角

道はまだまだ続いている

雨に濡れて ツツジが薄紅色を輝かせている

運動会のマラソンでは、早く折り返しが来ないかと、曲がり角のたびに終りを期待していたが、こんなにゴールが来ないことを願って前に進むことは初めてだった。

同じような道、曲がり角だが、そのどれもが違った景色であると気づいた。

そして、雨が上がり、そこには母が私を待っていた。私の歩みを頂上で静かに見守り続けていた。私の後方に広がるこの南部町を見守り続けている。

(藤原 俊幸)